



# こころのはな



## 道徳の時間の様子

### 6年生「ロレンゾの友達」

「ロレンゾの友達」には、親友のロレンゾから届いた「20年ぶりにみんなに会いたい。」という内容の手紙と、ロレンゾが犯罪を犯し、警察が行方を追っているという状況の中で、ロレンゾに対してどのように向き合えば良いのかを思い悩む場面が出てきます。3人の友達の、ロレンゾを信じたいという気持ちと、本当に犯罪を起こしたのではという気持ちの間で揺れ動く心情の変化を考えることで、『「ほんとうの友達」とはどんな友達なのか』を考えられるお話です。



授業では、まず「ほんとうの友達とは？」という問いを投げかけ、児童の友達像について考えを出し合いました。児童からは「仲が良い友達」「ダメと言える友達」などの意見が出されました。

次に、ロレンゾからの手紙を読んだときの気持ちを考えました。会えることを楽しみに思っている心と、本当に犯罪をおかしたのなら、自分達まで疑われてしまうのではないかという心が交差していることをしっかりとつかむことができました。

結局ロレンゾは警察の勘違いのせいで無罪だったのですが、友達がロレンゾを疑ってしまったこと、それをロレンゾに打ち明けられなかったことを通して、「ほんとうの友達とは？」という問いについて考えを深めている様子が見られました。



### 「ほんとうの友達とは？」（児童ふりかえりより）

- ・ほんとうの友達とは、友達のことを考えて、信じる人だと思います。もし疑うようなことがあったとしても、ロレンゾのように後で笑い合える関係を保つことが大切だと思います。
- ・友達が悪いことをしてしまったときには、助けてあげたい気持ちをもつことができるのがほんとうの友達だと思います。
- ・ほんとうの友達は、その人にとって何が一番いいかを考えられる友達だと思います。
- ・ほんとうの友達は、自分のことを信頼してくれたり、ダメなことはダメとしっかり言い合えたりする友達だと思います。今は丸くおさまっていても、そんな関係でないと、どんどんくずれていくからです。